芦田川さかなマップ

2011年9月25日作成

※このマップは、社団法人瀬戸内海環境保全協会“KJB瀬戸内基金助成”を受けて作成したものです。

凡例

- 平成17年
- 平成18年
- 平成19年
- 平成20年
- 平成21年
- 平成22年
- 平成23年
- 貴 きれいな川に住む魚など、芦田川にとって貴重な種類。

府中大渡橋

調査した場所
田畑の間に家がまばらにあるような場所で、比較的水はきれいである。川幅は広く、水の流れは早い。川の中に州がたくさんあり、葦が茂っているため、水辺の生物にとって生きやすい環境だといえる。見つかる魚の種類が多く、アカザも見られる。川岸が整備され、川の中に入りやすくなっている。

貴

アカザ
宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布する。水が比較的きれいな川の中流から上流下部の瀬の石の下や間にすみ、石のすき間をかいくぐるように泳ぐことが多い。背びれに1本、胸びれに1本、腹びれに1本の大きなトゲがあるので背ずり、トラれると痛い。芦田川水系での生息数は多くない。

貴

ギギ
本州中部以南、四国、九州の東部に分布し、比較的水はきれいで、石や流木、石垣などがあるところで見られる。背びれと胸びれのとげが発達していて、さされると激しく痛む。つかまえると胸びれでギーギーなく。

アユ
本州全域に住んでいる。天然アユは減少しているため、琵琶湖などから種魚を取り寄せて放流している。石の表面に付いている藻を食べる。中流に多くいる。

ムギツク
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石が多いような流れのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ物陰にかくれてしまう。石についている水生昆虫を食べる。

ズナガニゴイ
近畿地方以西の限られた川にしかいない。川の中流域から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に住み砂にもぐって水生昆虫などを食べる。
普通のニゴイよりも体が小さいが頭と口は長く、体側に小黒点の列がある。

シマドジョウ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。眼アにとげがたたまれており、手でにぎると現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している。

ヤリタナゴ
北海道と南九州を除く各地に生息し、平野部の細流や用水路上部などの水の流れのある所にいる。ソウ類をよく食べマツカサガイやイシガイに産卵する。繁殖色で体幅が著しく狭く、背びれに黒い斑点がある。

ドンコ
東北を除く本州全域に住む。中流から下流に多い。夜行性の傾向が強く、砂底を好み、小魚・エビ・カニ・水生昆虫を食べる。広島県内では減少しているが、芦田川水系では、比較的安定した個体群がいる。

カワムツ
本州中部以西に生息しているが、現在では関東地方でも見られる。河川の上、中流や流れのゆるやかな淵に多くいる。なわばり意識が強く雑食性で昆虫や藻などを食べる。太い1本の暗色の縦縞があるのが特徴。

ウナギ
太平洋側は北海道の日高地方以南、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。背側は暗色で、腹側は白色、特別の斑紋はない。
春から秋にかけて水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類などを活発にとり、成長する。

ナマズ
本州以南の日本各地に分布する。
口ひげが4対あり、体は太くて丸い。
夜行性で、昼間は岸辺の植物の根元などにひそんでいる。
雑食性で、魚類、エビ類、カエル類、水生昆虫類などを食べる。

オイカワ
本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。
雑食で付着藻類から水生昆虫や落下昆虫、底生動物や浮遊動物などを食べる。また、成長にともなって食性転換が起こる。雄は、産卵期には、婚姻色が出て、とてもきれいだ。

カマツカ
本州全域に住んでいる。天然アユは減少しているため、琵琶湖などから種魚を取り寄せて放流している。石の表面に付いている藻を食べる。中流に多くいる。

タモロコ
山陽地方では全域で見られる。川の中、下流域の湖沼や池などのようどんだ水域にすんでいる。稚魚は流れで動物プランクトンを食べ、1年で成長し、成魚は動物質をやや多くした雑食。以前は池などにふくいたが最近は見られなくなっている。

コウライニゴイ
成魚/雄として知られていたエゴイの体内に卵巣が含まれていることが明らかになり日本での分布が確認された。本州地方から九州地方、四国の大河川の中・下流に生息する。砂底を好み水生小動物や藻を食べる。

イトモロコ
愛知県以西、九州北部まで住んでいる。
中流から下流に多い。芦田川では比較的上流側に分布しており、支流の流れで多数観察されることがある。

貴

メダカ
本州以南に広く分布し、池、水田や用水、河川の下流域など、流れの緩い場所に生息する。動物・植物プランクトンや水面に落ちた小さな昆虫などを食べる雑食性。近年は水路のコンクリート化など開発が進み、次第に住み場が失われている。

ドジョウ
日本全国に生息し体長約10cm分布し底生動物や水田、用水路などの泥底に住んでいて有機物を食べる雑食。農薬などに弱く、水路の工事などもあり激減、現在では、福山市内で見つけるのは極めて難しい。

ナマズ
現在はほぼ日本全国に分布。湖沼や河川の中流から下流域にかけて生息し、夜間に行動する。完全な肉食性できわめて貪欲。口に入るそのならどんな生物も食べようとする。

ニシキゴイ
正確な分布は移殖が多いためはっきりしないが関東以西に生息し、水草の多い緩やかな流れの場所に住む。
河川の下流部や湖、沼を中心にさまざまな環境に生息する。
産卵は、6月～8月の日中に行われ、1匹のメスを数匹のオスが追いかける。雑食性で成魚の美しい色の変種がニシキゴイと呼ばれる。

ギンブナ
全国各地に分布する。
川の下流の淀みや、平地の低湿地帯や沼地に生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほかに、場所によって動物プランクトンなども食べる。ギンブナには、雄はいない。

ヤリタナゴ

ギギ

カワムツ

ドンコ

ズナガニゴイ

ムギツク

貴

カワヒガイ
濃尾平野以西から九州北西部の中下流地域に生息している。夏季には本流から水を引く用水路にも生息。体側に青や緑色などの輝きがみられる。動物食主体の雑食性。産卵はイシガイなどの二枚貝に行われる。

オイカワ
関東以西の本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。
雑食で付着藻類から水生昆虫や落下昆虫、底生動物や浮遊動物などを食べる。また、成長にともなって食性転換が起こる。雄は、産卵期には、婚姻色が出て、とてもきれいだ。

貴

オオクチバス(別名:ブラックバス)
北アメリカ原産で、今では国内のほぼ全域にが分布している。止水や流れのゆるやかな河川に生息し、大き口口で魚類や甲殻類を食べる。体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側が美味を帯びた白色となっているのが特徴。特定外来種に指定されている。

カワヨシノボリ
中部地方以西の西日本に住む。
上流中流の流れのゆるやかな所に住み、藻類や小型の水生昆虫を食べる。止水域ではなぜか生息できない。

カマツカ
本州、四国、九州に分布し、用水路の砂や石の川底で流れのある場所でみられる。口が下向きについていて、下ではらかえさくのびる。口からえさ砂ごとほおばり、エラぶたから砂を出しながら前進する。

みんなが選んだ！ 好きな生き物トップ3

府中大渡橋	出口川
1. カワムツ	1. メダカ
1. ドンコ	2. ギンブナ
3. ギギ 他	3. カワムツ 他

今年のアイドル カワムツ☆

たくさん見つかったよ！

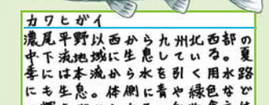
自分で魚をつかまえたことは、今までなかったし、つかまえ方も分かったのでよかったです。

魚をとるだけでなく、さかなマップを作ったり、調べたり、楽しく勉強できました。

20cm位のカマツカと15cm位のズナガニゴイが一緒に獲れました。初めて見た魚なので嬉しかったです。

出口川

調査した場所
出口川は町の中をながれていて、生活排水が流れこむ川である。川岸には草が多く生えているが、頻繁に刈り込みが行われていて、魚のすみかが減っている。川幅が狭く流れがゆるい。川底は砂が積もっていて魚の産卵が多く、カワヨシノボリが定着している。



水質調査結果（パックテスト等）

調査日：2011/9/25

項目	地点名	
	芦田川 府中大渡橋	出口川
時間	10時30分	10時20分
気温	25.0℃	27.0℃
水温	21.0℃	21.0℃
透視度	100cm以上	100cm以上
pH	7.59	7.65
COD	4mg/L	4mg/L
亜硝酸	0.02mg/L	0.02mg/L
リン酸	0.05mg/L	0.1mg/L

府中大渡橋で見つけた生物

- カワゲラ
- サワガニ
- ヒラタカゲロウ
- カワニナ
- コオニヤンマ
- コガタシマトビケラ
- スジエビ
- ヒラタドロムシ
- ヌマエビ属
- カゲロウ目
- トンボ目

まとめ

今年も大小さまざまな魚を観察することができました。府中大渡橋では、今年はじめてウナギが見つかりました。
同時に行った水生生物調査でもきれいな水の指標生物であるヒラタカゲロウが多数見つかりました。さかなマップの作成では、先生から魚の特徴を教えてもらい、上手に描いていました。

参加者の作品

出口川で見つけた生物

- カワニナ
- コオニヤンマ
- コガタシマトビケラ
- スジエビ
- ヒラタカゲロウ
- ウシガエル
- ヒラタドロムシ
- ヒル
- アメリカザリガニ
- シジミ属